

【別紙】審査項目

大項目		小項目	詳細
①事業内容の理解度	目指すところ・課題を認識しているか	(ア)目指す姿	持続可能な観光地域づくりの実現に向けて、観光DXの推進を通じて地方誘客、オーバーツーリズム対策、インバウンド消費拡大といった課題に対し、単一の課題もしくは複合的な課題解決に取り組み、地域全体の消費拡大、誘客・再来訪促進に寄与する内容となっていること
		(イ)現状・課題	地方誘客、オーバーツーリズム対策、インバウンド消費拡大といった課題に対し、観光地・観光産業の現状やこれまでの取組と成果を踏まえたうえで、目指す姿の実現に向けた取組が設定されていること
②提案内容の的確性	的確な計画が検討されているか	(ア)KGIとKPI	地域全体の消費拡大、誘客・再来訪促進を図るべく、本実証事業の目標値となるKGIやその進捗を定量的に把握するための観測指標となるKPIが設定され、その運用方法が具体的に示されていること
		(イ)解決策	・課題解決に取り組むにあたり、デジタル技術等を活用した施策・サービスが観光地・観光産業に与える影響が明確かつ具体的に示されていること ・システム基盤の構築・運用手法（導入製品・構築費用・運用費用等）や構築・運用を支えるデジタル人材の確保・育成手法等が具体的に示されていること ・他地域がデータを活用したDX推進に取り組むにあたり参考となるような、費用対効果の高い課題解決手法が具体的に示されていること
		(ウ)スケジュール	・デジタル技術を活用した施策の実施期間が十分に確保され、期間内に想定されるリスクとその対処も含め、計画が策定されていること ・実証事業終了後においても、コンソーシアムにて事業を継続するための、費用・人員等の運営体制が明確に示されていること
③提案内容の独創性	提案内容に独創性・優位性があるか	(ア)実証内容の独創性	一定の知識や経験に基づき、将来に向けて転換・変容させていくことが望ましい領域が特定され、将来のニーズや課題に実証事業が適用され機能すること（思いつきでなく成果）を通じて、地域に新しい付加価値を生み出す内容となっていること
		(イ)実証内容の優位性	・従来の手法や単なるシステム導入と比較して、現状の課題に対する仮説が論理的に構築されており、その成否を判断するためのデータ取得・検証方法が明確に示されていること ・また、仮説が外れた場合でも、次期の施策に活かせる有益な示唆（ネガティブデータを含む）が得られる内容となっていること
④事業遂行の確実性	事業を確実に遂行する能力を有し、事業実施にあたり地域等や関係機関との調整及び連携体制が取れているか	(ア)事業実施体制	目標達成及び計画遂行に必要となる組織、人員等を有し、参画する各企業等の役割が適切に分担され明確化されていること
		(イ)地域等との調整状況	本実証事業を進める上で、地域での合意形成や関係する事業者の巻き込みが円滑に進むよう、必要となる地域・事業者との連携・調整等が取られていること
		(ウ)地域活性化の実績	デジタル技術やDX推進を含む地域活性化や観光誘客等の事業実績を有していること